

環太平洋大学の学生におけるキャリア意識の一考察

— 職業観に関するアンケート調査の結果を通して (1) —

Considerations to students career directions at “International Pacific University”

— Through the results of a questionnaire about work values. (1) —

次世代教育学部教育経営学科

小野 憲一

ONO, Kenichi

Department of Educational Administration

Faculty of Education for Future Generations

キーワード：キャリア教育, キャリア意識, キャリア形成支援, アンケート調査, 職業観・勤労観

Abstract : In this paper the results of a questionnaire survey made to third year students of the International Pacific University are discussed. This survey has the aim of collecting data to support the basic sense of career and vocational formation in future working paths, career awareness and important factors in decision making.

At this point in time, it is difficult to respond sufficiently to the needs of the students. This survey will help to address the state of career education and practice of this university. Also the results will help to improve the career development support for students.

Keywords : Career education, Career consciousness, Career development support, Questionnaire survey, View of working, professional values

1. はじめに

1999（平成11）年12月に中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」¹⁾ わが国で最初に「キャリア・キャリア教育」という言葉がでてきた答申であり、キャリア教育は、発達段階に応じて実施する必要があると述べられている。教育課程におけるキャリアの学習、キャリアガイダンス、カウンセリング、インターンシップなど、「学校教育と職業生活との接続」を図る取り組みとして小学校から高等教育にいたるキャリア教育が提案され、次のように定義された。（1）職業観・勤労観の育成。（2）職業に関する知識・技能の習得。（3）自己理解を前提にした進路・職業選択能力の育成を目標とする教育である。

またこの答申を受けて文部科学省は、2004（平成16）年1月「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」は、「戦後半世紀の教育の発展と課題を踏まえて、学校教育と職業教育の円滑な接続を図るために望ましい就労観・勤労観および職業に関する

知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」「一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念」である定義づけ、同年6月には「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」が出され、小学校・中学校・高等学校の各段階でキャリア教育の推進が始まり、具体的な対策や方法、取り組みを発表した。この年を「キャリア元年」と呼んでいる。

そして、昨年2011年（平成23）年1月には「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」についての答申が出された。これは主に中等教育以降の段階の内容であり、大学におけるキャリア教育の在り方について言及している。

現在、高校生の半数以上が大学に進学し、大学サイドも全入制の時代となっている。また、ほとんどの大学においてキャリア教育が導入され、多くの取り組みが実践されている。これまで大学に入学すると学生自身に

将来の進路選択・就職活動、キャリア意識・形成の支援援助に過ぎなかったことが、大学として責任をもって学生の「職業観・勤労観」に関する資質や能力の育成に取り組む必要があるとの認識が定着した。しかしながら、大学における職業観・勤労観を育成させるための研究は初期段階であると言っても過言ではない。

大学におけるキャリア教育は、学校教育全体を通して取り組みを強化しなければならない、新卒学生の就職支援ではなく、大学入学から、あるいは入学前教育から4年間の大学生活を含め、学生が主体的にキャリアを考え、大学で学ぶことを中心に大学生活を構築していくための支援であると指摘されている。²⁾

本学でキャリア教育を考える場合、私学である特性や特質、大学を取り囲む環境などにも影響があると考えられる。また、入学してくる学生や在校生のキャリア意識がどのようなものなのかを分析し、その結果を活用していく必要がある。そこで、進路選択決定時期に当たる3年生を対象として実態調査を行い、本学におけるキャリア教育のための基礎的な資料を収集することを目的とする。

2. 本学におけるキャリア支援体制

本学は、2007（平成19）年に開学し、卒業生も1期生・2期生を輩出し今年で6年目を迎え、現在に至っている。2012（平成24）年4月には2学科が増設され、学部学科体制は次世代教育学部（教育経営学科・こども発達学科・国際教育学科）と体育学部（体育学科・健康科学科）の2学部5学科になった。

開学当初より、学生の将来に向けて進路先や職種の拡大などの重要性を鑑み、キャリア教育関係の講義や講座を実施してきた経緯がある。時代とともに本学におけるキャリア支援体制も充実し発展しつつある。

【本学で開講しているキャリア教育】

1年次：「フレッシュマンセミナー」（通年）

社会人基礎力の育成を中心として、自分と社会の関わりについて理解を深める。

2年次：「キャリアディベロプメント」（通年）

企業の人事担当者や有識者の講演会を実施し「仕事」の意味社会で求められる力を学ぶ。

3年次：「キャリアデザイン」（通年）

前期では自己分析を中心として自分の目指す進路を明確にさせていき、後期からは、自分が選択した進路希望（教員〈小中高教員、幼稚園・保育士・社会福祉

施設等〉・公務員〈警察官・消防士などの公安系〉・一般企業〈岡山市を中心とした全国の企業等〉）に対応した指導の実施。

4年次：「キャリアサポート」（半期）

即戦力として活躍できるようにプレゼンテーション能力やディスカッション能力などの育成を中心とした講座を開講し、より細かく本人に即した進路決定を支援する。

また、エクステンションとして、自分の進路先に合わせて、基礎学力の強化と一般教養の醸成を図るために小論文講座（教員・就職志望用）、一般教養対策講座（国語・数学・社会・理科・英語など）、教員対策講座、公務員対策講座も開講している。

入学してきた学生に対して、全教職員が対応し援助することによって学生一人ひとりにきめ細かい指導を行うことができる。これを実行するためにキャリアセンターが設置されている。このキャリアセンターの運営は、下記のように5分室（通年）学習支援室・教職支援室（小中高分室）・公務員就職支援室・企業等就職支援室・幼保施設支援室）を設置している。



《図1》

このように、キャリアセンターを中心に5分室に分かれキャリア教育の充実を図るとともに、キャリア情報を学生に提供し稼働している。

今回は、学生が1年、2年次と積み重ねていき、自分の進路選択をする3年次を対象として、「大学生の職業観に関するアンケート調査」を実施した。本学の学生の職業観・勤労観、キャリア意識の形成、進路決定の要因などがどのようなものなのかを調査し、その結果から今後本学でのキャリア教育、キャリア支援体制の一助となると考えられる。

3. 調査概要

「大学生の職業観に関するアンケート調査」を下記の要領で実施した。

①実施期間

2012年5月21日、3年次3講時、筆者が担当する「キャリアデザイン（卒業必修科目）」の講義後半（13：50～14：15の25分）で実施した。

②調査対象

環太平洋大学3年生、計264名（男子157名、女子107名）〈キャリアデザイン受講者の総数は346名であるが、当日は、教育実習期間中や部活動の公式戦等もあったため欠席者がいた。〉

③調査方法

アンケート質問紙（自記式、無記名式の調査用紙〈A3版裏表〉）によって調査を実施した。

④質問紙の構成

このアンケート質問紙は、筆者が小学校・中学校・高等学校の児童生徒を対象にして「職業観・勤労観」を調査したアンケート質問紙をもとに、大学生用に一部改編したものを使用した。アンケート質問紙の構成は下記のとおりである。

問1：性別

デモグラフィック変数による性別について尋ねた。

問2：所属学年

デモグラフィック変数による学年について尋ねた。

問3：身近な人の仕事に対する関心（5件法）

身近な人（ここでは自分の家族で仕事に従事している人を指す：両親・兄弟、姉妹・祖父母）の仕事に対する関心や興味がどの程度あるかについて「是非したい＝1」～「全くしたくない＝5」の5件法で回答を求めた。

問4：家庭での会話の頻度（5件法）

家庭で普段からどの程度会話をするのか、その頻度について「大変よくする＝1」～「全くしない＝5」の5件法で回答を求めた。

問5：働くことへの意欲（5件法）

現時点において、自分自身早く仕事に就いて働きたいかの意欲について「非常にしたい＝1」～「全くしたくない＝5」の5件法で回答を求めた。

問6：就きたい職業の具体名（記述式）

現時点において、将来就きたいと考えている職業名を一つだけ具体的にあげてもらい記述で回答を求めた。

問7：将来の進路を考え始めた時期

自分が、将来こんな風になりたいとか、こんな職業に就きたいなど将来の進路を考えはじめた時期について「小学3年生ころ」～「大学4年生」「その他」の15の時期を選択して回答を求めた。

問8：大学卒業後の進路

大学を卒業した後、どのような進路選択を考えているのか「就職（家業を含む）」「専門・各種学校に進学」「他の大学・短期大学進学」「大学院進学」「外国に留学」「フリーター（アルバイトを含む）」「まだ考えていない」「その他」の中から回答を求めた。

問9：大学に通うことの意義（3つまで選択）

大学生が、大学に通いその対象をどのように考え、通学しているのかその意義について回答を求めた。

問10：30歳頃の自分の働き方

大学を卒業し、約10年以上経過したときには、自分は、どのような仕事形態で従事していると思うか「正社員として」「自分で事業」「家業」「専門職として独立」「アルバイトやパート」「仕事はしてたくない」「その他」の中から回答を求めた。

問11：興味のある職業について（5件法）

仕事の内容や職種を大きく10種類に分類し、やってみたい仕事「物を作ったり組み立てたり」「物を考えたり調べたり」「計算したり書類を作ったり」「社会や組織で人をまとめたり」「絵や音楽」「言葉や数字をたくさん使う」「いろいろな人と接する」「機械や道具をいろいろ使う」「からだを使って自然を相手にする」「物を車などで遠くに運ぶ」の10項目について「大いにしたい＝5」～「まったくしたくない＝1」の5件法で回答を求めた。

問12：職業・仕事に関する情報源（5件法）

日ごろの生活の中で、職業や仕事に関する情報はどこから入ってくるのか、「テレビを見ている」「本を読んでいる」「雑誌を読んでいる」「学校での授業中」「友達との会話」「先輩との会話」「先生と会話」「両親と会話」「パソコンを見ている」の9項目から「非常によくある＝5」～「全くない＝1」の5件法で回答を求めた。

問13：職業・仕事を決定時の重視項目（5件法）

職業や仕事に就く時や決定する際に、重要視する事柄はどういったものか「自分の技能や能力が活かせる」「仕事の内容や職種」「会社の規模や知名度」「会社の将来性」「仕事の社会的意義」「通勤の便利さ」「賃金の条件」「労働時間や休日・休暇の条件」「勤務地」「転勤の有無」「福利厚生の実施」の11項目から「非常に重視する＝5」～「全く重視しない＝1」の5件法で回答を求めた。

問14：将来の働く目的（5件法）

何のために自分は仕事に従事し、働いている目的は何なのか10項目から「全くそう思う＝5」～「全くそ

うは思わない＝1」5件法で回答を求めた。

問15：進路決定時に役立つ項目（5件法）

進路を決定する要因として「偉くなるため」「人に認められたい」「お金持ちになるため」「自分の得意なことをするため」「やりたい事をするため」「遊ぶのに必要なお金をもらうため」「人と仲よくするため」「世の中をよくするため」「働くのは当たり前」「貧乏にならないため」「その他」の14項目から「非常に役立つ＝5」～「全く役に立たない＝1」の5件法で回答を求めた。

問16・問17：職業観・勤労観を育む諸能力

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」2002（平成14）年11月国立教育政策研究所生徒指導研究センターで示された「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」は、職業観・勤労観に支えられて発達する能力・態度にはどのようなものがあるかという視点に立って、各学校段階で育成することが期待される能力・態度を検討して作成されたものである。具体的には、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の4能力領域に大別し、それぞれを構成する能力を、各二つずつ計8能力に整理している。その中で、筆者が「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いと思われる項目や文言等を精査し、作成した42項目を「とてもそう思う＝6」～「全くそうは思わない＝1」の6件法で回答を求めた。

なお、本研究では紙面上の制約上、「問1 デモグラフィック変数による性別」～「問12 職業・仕事に関する情報源」までを分析し、考察を行うこととする。ただし、無記名でのアンケート調査で所属学科の項目を設けていなかったため、学科別の分析をすることができなかった。今回は、男女別のデータをあげて考察した。

⑤回収方法

「キャリアデザイン」講義終了後、その場で回収した。

⑥回収数（回収率）

264名／346名（76.3%）

4. 結果と考察

①回答者の構成

今回の調査は、次世代教育学部（学級経営学科・乳幼児教育学科）、体育学部（体育学科）3年次264名（男性157名：59.5%、女性107名：40.5%）から回答を得ることができた。本来の受講している学生は346名であったが、アンケート調査実施日が学生の教育実習や

部活動の公式試合などと重なったためサンプル数が少し減少した。回収率は全体として76.3%と高かった。

表1 あなたの性別と学年

(上段：人数，下段：%)			
問1・2	男子学生	女子学生	総計
3年生	157	107	264
	59.5	40.5	100

自分の家族が従事している仕事に対して「してみたい」という興味関心を回答してもらった。その結果、約60%弱の学生が「あまりしたくない・全くしたくない」という回答であった。

表2 あなたは、お家の仕事をしてみたいですか

(上段：人数，下段：%)						
問3	是非したい	多少したい	どちらともいえない	あまりしたくない	全くしたくない	総計
男子学生	12	33	51	30	31	157
	7.6	21.0	32.6	19.1	19.7	100
女子学生	8	18	31	28	22	107
	7.5	16.7	29.0	26.2	20.6	100
総計	20	51	82	58	53	264
	7.6	19.2	31.1	22.0	20.1	100

普段の生活の中で学生が、自宅などで家族と会話をするかその頻度を回答してもらった。その結果「大変よくする」「多少する」は、男女学生を合わせ全体で79.2%であった。本学の学生は、家庭なくてもよく会話をする事が分かった。家庭内でのコミュニケーション能力は高い方ではないかと考えられる。

表3 あなたは、お家の方とよく会話をしますか

(上段：人数，下段：%)						
問4	大変よくする	多少する	どちらともいえない	あまりしない	全くしない	総計
男子学生	58	62	24	11	2	157
	36.9	39.5	15.3	7.0	1.3	100
女子学生	47	42	12	6	0	107
	43.9	39.3	11.2	5.6	0.0	100
総計	105	104	36	17	2	264
	39.8	39.4	13.6	6.4	0.8	100

大学の3年生の段階で、「早く職業について、仕事をしたい」と考えている学生は、男子学生で70%、女子学生で55.2%であり、全体として64.1%という結果であった。3年次で将来の進路先、就職先を決定してい

かなければならない時期でもあるのでこのような高い結果となったと考えられる。また、本学では早い段階で、自分の将来の職種についてのガイダンスや支援を行っているので、その影響も考えられる。しかしながら「あまりしたくない・全くしたくない」と「どちらともいえない」を合計すると35.9%の学生が、早く職業に就いて仕事をするのを躊躇し、働くことへの希薄化の現状が分かる。

表4 あなたは、早く職業について、仕事をしたいですか

(上段：人数，下段：%)						
問5	非常にしたい	多少したい	どちらともいえない	あまりしたくない	全くしたくない	総計
男子学生	50	60	34	8	5	157
	31.8	38.2	21.7	5.1	3.2	100
女子学生	26	33	27	14	7	107
	24.3	30.9	25.2	13.1	6.5	100
総計	76	93	61	22	12	264
	28.9	35.2	23.1	8.3	4.5	100

「あなたが、将来就きたい職業は何ですか」の問いを記述式で一つだけ回答してもらった。一番多かったのが「教員（73人：27.7%）」であり、次に「公務員（25人：9.5%）」であった。それとは別に「警察官（15人：6.7%）」「消防士（12人：4.5%）」「幼稚園教諭・保育士（18人：6.8%）」「スポーツ関係〈実業団・プロ選手などを含む〉（15人：5.7%）」の結果であった。

本学では、入学時の面接時において、将来の自分の就きたい職業について確認をし、入学してから、その実現に向けて教職員が支援、指導してきた結果であると考えられる。また、体育学部が設置されており学生は、大学のスポーツ戦績を活かし、実業団やプロ野球・プロサッカーなどに就職を考えている学生も多い。しかしながら、学生の「未回答（62人：23.5%）」の学生が存在しており、この時期において、「自分はどんな職業に適しているのか」「どんな仕事をしたいのか」、迷っている学生もいることが分かった。

表5 あなたが、将来就きたい職業は何ですか

(上段：人数，下段：%)			
問6	男子学生	女子学生	合計
教員（小・中・高教員）	47	26	73
	30	24.3	27.7
公務員（一般職）	3	22	25
	1.9	20.6	9.5
一般企業	10	11	21
	6.4	10.3	8

幼稚園・保育士関係	17	1	18
	10.8	0.3	6.8
警察官	14	1	15
	8.9	0.3	6.7
消防士	9	3	12
	5.7	2.8	4.5
スポーツ関係	12	3	15
	7.6	2.8	5.7
その他	18	5	23
	11.5	4.7	8.7
未回答	27	35	62
	17.2	32.7	23.5
合計	157	107	264
	100	100	100

「将来の進路を考え始めた時期」においては、最も多かったのが高校3年生頃24.2%であった。義務教育段階ではあまり、将来の進路を考えことは無い傾向である。やはり、義務教育を終了し、高校3年生は、大学・就職かの選択をする時期であることは言うまでもない。ついで、大学2年生頃が17.9%であった。これは、1・2年次とフレッシュマンセミナーやキャリアディベロップメントでの講義内容（キャリアに関する講義・企業の人事担当者、などにおける講演・キャリア形成支援のための資料の配布など）が反映されていると考えられる。

表6 あなたは、いつ頃から将来の進路を考え始めましたか

(上段：人数，下段：%)					
問7	小学3年生ころ	小学4年生ころ	小学5年生ころ	小学6年生ころ	総計
男子学生	3	0	3	6	157
	1.9	0.0	1.9	3.8	100
女子学生	1	1	1	0	107
	0.9	0.9	0.9	0.0	100
総計	4	1	4	6	264
	1.6	0.4	1.6	2.3	100

	中学1年生ころ	中学2年生ころ	中学3年生ころ	総計
男子学生	6	9	9	157
	3.8	5.7	5.7	100
女子学生	5	6	6	107
	4.7	5.6	5.6	100
総計	11	15	15	264
	4.2	5.8	5.8	100

	高校1年生ころ	高校2年生ころ	高校3年生ころ	総計
男子学生	8	21	36	157
	5.1	13.4	22.9	100
女子学生	9	6	28	107
	8.4	5.6	26.2	100
総計	17	27	64	264
	6.5	10.2	24.2	100

	大学1年生 ころ	大学2年生 ころ	大学3年生 ころ	総 計
男子学生	17 10.8	25 15.9	13 8.3	157 100
女子学生	7 6.5	22 20.6	11 10.3	107 100
総 計	24 9.2	47 17.8	24 9.2	264 100

	そ の 他	総 計
男子学生	2 1.3	157 100
女子学生	1 0.9	107 100
総 計	3 1.2	264 100

「大学卒業後はどのようにしたいと思っているか」においては、84.1%の学生が、「就職（家業を含む）」と回答している。それに対して「まだ考えていない」と考えている学生が11.3%もいた。

本学では、学生に対して丁寧な就職活動を支援援助しながら1・2期生の卒業生を輩出してきた経緯がある。卒業生がどのような職種の会社に入社し、どんな理由で退社し転職していったなどの追跡調査、分析を併せて行うことで、本学の学生の傾向が見えてくると考えられる。

表7 あなたは、大学卒業後どのようにしたいと思っていますか

(上段：人数, 下段：%)

問8	就職（家業を含む）	専門・各種学校進学	他の大学・短期大学進学	大学院進学	外国に留学	フリーター（アルバイトを含む）	まだ考えていない	その他	総 計
男子学生	138 87.9	2 1.3	0 0.0	2 1.3	1 0.6	0 0.0	13 8.3	1 0.6	157 100
女子学生	85 78.7	1 30.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	17 15.7	1 0.9	108 100
総 計	223 84.1	3 1.1	1 0.4	3 1.1	2 0.8	1 0.4	30 11.3	2 0.8	265 100

「大学に通うことの意義」について3つまで回答してもらった。男子学生では「専門的な知識を身につける」22.6%,「学歴や資格を得る」20.1%,「一般的・基礎的知識を身につける」が16.4%であり、上位3つ

までが59.1%という値を示した。また女子学生の上位3つは、「専門的な知識を身につける」24.7%,「学歴や資格を得る」22.9%,「友達との友情を育む」11.4%という値を示した。

表8 あなたにとって、大学に通うことは、どのような意義がありますか

(上段：人数, 下段：%)

問9	一般的・基礎的知識を身につける	専門的な知識を身につける	職業的技術を身につける	学歴や資格を得る	自分の才能を伸ばす	友達との友情を育む	先生の人柄や生き方から学ぶ	自由な時間を楽しむ	特に意義はない	その他	総 計
男子学生	66 16.4	91 22.6	37 9.2	81 20.1	45 11.2	27 6.7	15 3.7	34 8.4	4 1.0	3 0.7	403 100
女子学生	27 10.0	67 24.7	25 9.2	62 22.9	29 10.7	31 11.4	12 4.4	10 3.7	7 2.6	1 0.4	271 100
総 計	93 13.8	158 23.4	62 9.2	143 21.2	74 11.0	58 8.6	27 4.0	44 6.5	11 1.6	4 0.6	674 100

大学を卒業し、就職し企業に勤める。そして約10年後の30歳頃には、自分がどういった働き方をしていると思うかを回答してもらった。男子学生、女子学生と

も「正社員として働いていたい」が80%以上の学生が考えていることが分かる。

表9 あなたは、30歳頃になった時、どのような働き方をしたいと思いますか

(上段：人数，下段：%)

問10	正社員として働いていたい	自分で事業をやっていたい	家業を継いでいたい	専門職として独立していたい	アルバイトやパートで働いていたい	仕事はしてたくない	その他	総 計
男子学生	133	8	2	9	1	2	2	157
	84.7	5.1	1.3	5.7	0.6	1.3	1.3	100
女子学生	87	1	2	3	3	6	5	107
	81.3	0.9	1.9	2.8	2.8	5.6	4.7	100
総 計	220	9	4	12	4	8	7	264
	83.3	3.4	1.5	4.5	1.5	3.0	2.7	100

仕事の内容や職種を大きく10種類に分類し、それについて従事したい頻度を回答してもらった。それぞれの仕事に関してあまり興味が示されない。しかし「いろいろな人と接する仕事（学校の先生、医者、看護師

など）」の項目において、男子学生が「大いにしたい・少ししたい」69.4%，女子学生が67.3%であった。これは、本学の特徴が示されていると考えられる。

表10 あなたは、次のような職業（仕事）をやりたいですか

(上段：人数，下段：%)

	問11	大いにしたい	少ししたい	どちらともいえない	あまりしたくない	全くしたくない	総 計
物を作ったり組立てる仕事 (大工、パン・ケーキ屋など)	男子学生	15	63	31	29	19	157
		9.6	40.1	19.7	18.5	12.1	100
	女子学生	11	52	26	11	7	107
		10.3	48.6	24.3	10.3	6.5	100
	総 計	26	115	57	40	26	264
		9.8	43.6	21.6	15.2	9.8	100
物を考えたり調べたりする仕事 (弁護士、科学者など)	男子学生	2	19	34	56	46	157
		1.3	12.1	21.7	35.7	29.3	100
	女子学生	1	12	14	38	42	107
		0.9	11.2	13.1	35.5	39.3	100
	総 計	3	31	48	94	88	264
		1.1	11.7	18.2	35.6	33.3	100
計算したり書類を作ったりする仕事 (会社の事務、プログラマーなど)	男子学生	5	21	33	50	48	157
		3.2	13.4	21.0	31.8	30.6	100
	女子学生	3	20	21	32	31	107
		2.8	18.7	19.6	29.9	29.0	100
	総 計	8	41	54	82	79	264
		3.0	15.5	20.5	31.1	29.9	100
会社や組織で人をまとめる仕事 (会社社長、校長・教頭先生など)	男子学生	22	54	43	24	14	157
		14.0	34.4	27.4	15.3	8.9	100
	女子学生	1	15	28	34	29	107
		0.9	14.0	26.2	31.8	27.1	100
	総 計	23	69	71	58	43	264
		8.7	26.1	26.9	22.0	16.3	100
言葉や数字をたくさん使う仕事 (百貨店やスーパーの店員など)	男子学生	2	23	47	43	42	157
		1.3	14.6	29.9	27.4	26.8	100
	女子学生	1	25	35	27	19	107
		0.9	23.4	32.7	25.2	17.8	100
	総 計	3	48	82	70	61	264
		1.1	18.2	31.1	26.5	23.1	100
いろいろな人と接する仕事 (学校の先生、医者・看護師など)	男子学生	58	51	29	12	7	157
		36.9	32.5	18.5	7.6	4.5	100
	女子学生	37	35	25	10	0	107
		34.6	32.7	23.4	9.3	0.0	100
	総 計	95	86	54	22	7	264
		36.0	32.6	20.5	8.3	2.7	100

機械や道具をいろいろ使う仕事 (たたみ職人・散髪屋など)	男子学生	12	30	43	44	28	157
		7.6	19.1	27.4	28.0	17.8	100
	女子学生	2	19	26	31	29	107
		1.9	17.8	24.3	29.0	27.1	100
	総 計	14	49	69	75	57	264
		5.3	18.6	26.1	28.4	21.6	100
身体を使って自然を相手にする仕事 (漁師, 農業など)	男子学生	13	55	40	29	20	157
		8.3	35.0	25.5	18.5	12.7	100
	女子学生	8	21	27	23	28	107
		7.5	19.6	25.2	21.5	26.2	100
	総 計	21	76	67	52	48	264
		8.0	28.8	25.4	19.7	18.2	100
物を車などで遠くに運んだりする仕事 (パイロット, 電車や車の運転手など)	男子学生	11	39	43	34	30	157
		7.0	24.8	27.4	21.7	19.1	100
	女子学生	0	11	19	39	38	107
		0.0	10.3	17.8	36.4	35.5	100
	総 計	11	50	62	73	68	264
		4.2	18.9	23.5	27.7	25.8	100

職業や仕事に関わる情報をどんなところから得るかを回答してもらった。一番多かったのは「学校での授業中」という項目で、「非常によくある・多少ある」で男子学生80.9%, 女子学生88.8%全体では84.1%であった。次いで「先生と会話している時」男子学生77.7%, 女子学生86.9%, 全体で81.5%, そして「先輩と話をしている時」男子学生72.0%, 女子学生77.3%,

全体で77.3%であった。学校での授業中や先生と会話している時に職業に関する情報を得ている値がたかいは、学校内において、キャリアセンターの職員・ゼミ担当者・その他キャリア教育を携わる教職員の任務が果たされていると考えられる。また、テレビなどの視聴覚などといった媒体からの情報では76.6%であった。

表11 あなたは、職業（仕事）に関する情報をどんなところから得ますか

(上段：人数, 下段：%)							
	問12	非常によくある	多少ある	どちらともいえない	あまりない	全くない	総 計
テレビを見ている時	男子学生	31	85	25	13	3	157
		19.7	54.1	15.9	8.3	1.9	100
	女子学生	23	63	16	4	1	107
		21.5	58.9	15.0	3.7	0.9	100
	総 計	54	148	41	17	4	264
		20.5	56.1	15.5	6.4	1.5	100
本を読んでいる時	男子学生	16	61	40	26	14	157
		10.2	38.9	25.5	16.6	8.9	100
	女子学生	12	44	23	23	5	107
		11.2	41.1	21.5	21.5	4.7	100
	総 計	28	105	63	49	19	264
		10.6	39.8	23.9	18.6	7.2	100
雑誌を読んでいる時	男子学生	16	59	40	28	14	157
		10.2	37.6	25.5	17.8	8.9	100
	女子学生	8	43	22	29	5	107
		7.5	40.2	20.6	27.1	4.7	100
	総 計	24	102	62	57	19	264
		9.1	38.6	23.5	21.6	7.2	100
学校での授業中	男子学生	57	70	21	4	5	157
		36.3	44.6	13.4	2.5	3.2	100
	女子学生	50	45	7	4	1	107
		46.7	42.1	6.5	3.7	0.9	100
	総 計	107	115	28	8	6	264
		40.5	43.6	10.6	3.0	2.3	100

友だちと会話している時	男子学生	37	76	31	10	3	157
		23.6	48.4	19.7	6.4	1.9	100
	女子学生	22	62	15	8	0	107
		20.6	57.9	14.0	7.5	0.0	100
	総 計	59	138	46	18	3	264
先輩と話をしている時	男子学生	44	72	28	7	6	157
		28.0	45.9	17.8	4.5	3.8	100
	女子学生	32	56	13	4	2	107
		29.9	52.3	12.1	3.7	1.9	100
	総 計	76	128	41	11	8	264
先生と会話している時	男子学生	55	67	28	4	3	157
		35.0	42.7	17.8	2.5	1.9	100
	女子学生	41	52	11	3	0	107
		38.3	48.6	10.3	2.8	0.0	100
	総 計	96	119	39	7	3	264
両親と会話をしている時	男子学生	30	69	38	14	6	157
		19.1	43.9	24.2	8.9	3.8	100
	女子学生	18	50	23	15	1	107
		16.8	46.7	21.5	14.0	0.9	100
	総 計	48	119	61	29	7	264
パソコンを見ている時	男子学生	31	56	41	15	14	157
		19.7	35.7	26.1	9.6	8.9	100
	女子学生	18	37	28	14	10	107
		16.8	34.6	26.2	13.1	9.3	100
	総 計	49	93	69	29	24	264
		18.6	35.2	26.1	11.0	9.1	100

今回は、問1から問12における、本学の学生のデータ結果を紹介し、特徴と考えられることを述べてきた。本学の3学年の就職に対するキャリア意識が、全体的でどのようなものであるかは、まだ分析半ばである。後述に残りの問13から問17の回答結果も併せて分析し、本学の学生の特徴を述べたいと考えている。

- 1) 中央教育審議会答申1999年「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
- 2) 五十嵐敦2008年「大学におけるキャリア教育の実践」日本キャリア教育学会編『キャリア教育概説』東洋館出版社 p. 112-115